

博物館実習の感想

実習生



特別展の準備をする実習生



高橋先生の展示の説明を聞く実習生

2008年から行っている博物館実習は今年で5年目となり、昨年までは静岡大学の実習生のみを受け入れていましたが、今年から新たに東海大学海洋学部の学生も実習ができるようになりました。今年の実習は、8月から10月にかけての期間に、21名の学生が実習を行ないます。実習内容は、特別展の準備や解説、標本データベースについての実習が主になっています。すでに実習を終えた学生から感想をいただいたのでご紹介します。

静岡大学理学部3年 黒川祐梨

この5日間の実習はとても良い経験となりました。最初の3日間は説明文と写真がすっきりと見える配置の仕方や、パネル全体の高さの共通の目安についてなどを考えながらパネル設置を行い、学芸員には発想力と変更点が挙がった時の臨機応変な対応力が必要であると実感しました。残りの2日では、実際に特別展が始まり、質問に対してわかりやすく答えるためには、自分がその内容をしっかり理解し、幅広くそして深い知識が必要だと学ぶことができました。

静岡大学理学部4年 宮沢 卓

5日間の実習で学んだことは、学芸員の仕事に対するこだわりと情熱です。特別展が開催されるにあたり、実習では主にその準備に取り組みました。学芸員の方の指示のもとに準備を進めていったのですが、その指示の中

にはどのようにすれば見学に来たお客さんが興味を持って見てくれるか、という思いがこもっており、細かいところにまでこだわっていることが伝わりました。博物館というと展示物を見学するという印象が強いですが、それを準備する側に回れたことはとても勉強になり、いい経験になりました。

東海大学海洋学部水産学科4年 増田有花

今回の博物館実習では、主に特別展示「日本の蝶と自然」のお手伝いをさせて頂きました。大学のレクチャー等もありましたが、一般のお客様を相手にした実習は今回が初めてでした。そのため、いきなり一般のお客様の対応を任せられ最初はとても不安がありました。しかし、この施設の皆様に、お客様への対応をはじめ、展示物の扱いや知識を優しく教えて頂き、時間が経つと共にその不安はなくなっていきました。そして、実際にお客様とお話しすることによって感じたことも、私にとって勉強になることが多くありました。

自然学習資料センターは、一般的な博物館とは異なりますが、進化途中であるこの資料センターだからこそ、お客様や展示に対して柔軟な対応ができる良さを、この一週間の中で体感できました。展示の工夫についても施設独特のものを教えて頂き、また工夫の為の努力も知り、今回少しでもそのお手伝いができたことがとても嬉しかったです。とても、楽しく充実した博物館実習をさせて頂きました。